

社会のしくみを学んだ 子ども大学ぎょうだ学園祭

3月5日、商工センターで子ども大学ぎょうだの学園祭として、こどものまち「ミニぎょうだ」が開催されました。

同大学の修了生29人が「おもてなし隊」となって、ゼリーフライや団子の販売、古代人の服を着用体験できる店など行田らしい店全11店舗を運営。客として参加した市内の小学生約90人を気持ちよく迎えた修了生は、この学園祭を通して社会のしくみを学び、コミュニケーション力を身に付けることができたようです。



忍城おもてなし甲冑隊に大感激

忍城おもてなし甲冑隊が市立保育園で折り紙教室を行い、2月23日に長野保育園を訪問しました。

同甲冑隊による華麗な演舞が披露されると、園児らは感激した様子で武将らに惜しめない拍手を送っていました。その後、園児らは甲冑隊オリジナル折り紙でかぶと作りに挑戦。武将らに折り方を教わったり、甲冑に触れたり与时空を超えて訪れた武将との交流に、園児らは満面の笑みを浮かべていました。

寂しさ残るも 元気に泳ぐサケに歓声

2月17日、利根大堰下流の利根川河川敷でサケ稚魚放流会が行われ、南河原小学校5年生が参加しました。

サケが戻ってくる川をきれいにしようと思ったごみ拾いに続き、自宅などで育てたサケの稚魚を放流。児童らは、稚魚との別れに寂しさを感じつつも、元気に川を泳ぎ出す姿に歓声を上げていました。



豆腐作りに挑戦

2月18日、見沼中学校調理室で同中学校3年生による豆腐作りが行われました。

同校では、豆腐の原料である行田在来青大豆を栽培・収穫・調理・消費することで生徒に地産地消を体験させ、生産者への感謝の心を育むなどの食育に取り組んでいます。くらしの会の皆さんの丁寧な指導を受け、生徒らは不慣れな手つきながらも豆腐づくりに取り組み、出来たての豆腐をおいしそうにほお張っていました。